

新宮山彦ぐるーぷ第2049回

持経宿・平治宿巡回整備

◇実施日；2019年10月27日(日) 曇り後晴

◇参加者；沖崎吉信、児嶋道夫、上村洋司、濱野兼吉、高階美根子、奥村順夫、竹中卓治、梶野照雄。(8名)

午前7時新宮組4名は、沖崎車に乗車して出発する。宮井大橋を渡ると対岸の小船の芝生にはテントが沢山張られ、観光客が秋の行楽シーズンを楽しんでいる。また、北山川が合流する瀬には鮎の産卵を狙って、太公望が川に入り鮎釣りをしている。



池郷林道ゲート

持経宿に到着

ツキヨタケの生えた木

8時過ぎに下北山の運動公園駐車場に到着すると、紀北組3名高階、奥村、竹中の各氏が先着して、少し遅れて池原ダムサイトを廻って梶野さんが到着。全員が揃ったところで、沖崎代表より本日の活動は、平治小屋天辺の屋根の波板トタン釘打ち、水場の点検、小屋内の清掃等を行うと指示を受けるが、池郷林道の状況によっては行仙に廻ることもあり得るとのこと、持経小屋

を目指して各自乗り合わせの車で出発。

池郷林道は途中のゲートまでは順調良く進み、ゲートを過ぎ舗装が途切れ地道に入ってから、2カ所ほど落石があり除去するが台風、大雨の被害はほとんどなく持経小屋に到着。

持経小屋では玄関に吹き溜まった落ち葉を掃き出し、平治小屋へ運ぶ道具や荷物を手分けして出発。奥村さんは持経小屋に残り小屋・サッシ・行者堂の清掃をお願いする。

千年檜のお堂を開け、風が通るように扉を開けたままにする。本来ならこの時期もう少し奥駆道の紅葉もきれいなはずだが、今年はずな、ミズナラ等は落葉し、木の実も少ないようでほとんど落ちていない。



倒木の切除



平治宿に到着



屋根の補修

途中の中又尾根までに落下した枝が道を塞ぎ。私と上村さんがノコギリで枝を払うが、中心部分が直径20センチほどあり、梶野さんがチェーンソーで切り払う。児嶋さんが赤テープを一定間隔で木に巻きながら、道迷いがないように対策を講じていく。途中に2箇所ほど倒木がありチェーンソーで処理。途中私は枯れ木に生えたツキヨタケの群生を見つけ写真に納める。上村さんは落葉した葉からハリギリの木を見つけながら行く、数は8本ほどだ

が、大きなものばかりで手で取れるようなものはなかったようだ。平治小屋の手前で沖崎さんが薪用の枯れ木を引いて行くので、後続の我々もそれぞれ適当な枯れ木を見つけ、小屋まで引っ張って行く。

平治小屋に到着すると、沖崎さんから屋根からのトユの排水が詰まって、小屋の裏の低い所に水が貯まり、床の湿気が抜けず部屋中に湿気が蔓延している。雨トユからの排水をうまく処理できるように、排水溝のゴミを取り除き、屋根からの水を詰まらないように手当をする。水の貯まらないような対策も講じていかなければない。

屋根の天辺のトタンの補修や小屋の掃除、薪作りを沖崎、児嶋、高階、竹中さんに任せ、梶野、上村、濱野の3名は水場に向かう。水場には順調良く流れ込み、貯水槽には9月20日に補修された側溝用のスチール製グレーチングが3個連結して、流されないようにチェーンで取り付けられている。グレーチングを外し貯水槽の中に入った小砂利や泥をスコップと備え付けの行平鍋で取り除き作業を終える。今回はなぜかシーボルトミミズが1匹も入っていない。不思議に思う・・・。



平治宿水場の整備

小屋に帰るともうそれぞれの仕事有一段落していて、残ったのは作った薪を軒下の置き場に入れるのみ、それぞれ手に抱えたり、手箕に入れて搬入して昼食となる。

小屋の中は湿気が多く、壁板には水を吸い上げた跡形が残っているし、備え付けのノートも随分湿っぽい。梶野さんはホームぺージに掲載するために持参のスキヤナーでノートの書き込みを取り込む。

昼食後はいつものようにカフェコジマの開店。それぞれ持参したチョコレート、アゲパン、リング等はおぼりながら談笑。楽しい一時を過ごす。

児嶋さんは電気系統の調整を行い、梶野さんは携帯の充電器が壊れていたのを修繕する。その間沖崎さんより平治の小屋は行仙小屋を拵えたときに、この小屋の材も一緒にへりで荷揚げをして、玉岡さんの弟さんが建てたと、この小屋の経緯を説明。多くの人の善意で小屋ができ、南奥駆道が復活したことを心に刻み、継承して行くことが私たちの使命なのだろう。



充電器を交換



端子が壊れた充電器



床の乾燥が進んでいる

今回は小屋前での記念撮影をせず、紀北組が先発して帰路につ

いた。中又尾根を過ぎた頃だろうか、竹中さんが枯れた木の根元の穴にキノコが生えているから見て欲しいとのこと、穴の中に群生しているのはナメコ。穴の根元の方はもう笠が開ききっているが、ナメコ独特のヌメリがあり、私にとって天然物を見るのはこれが初めて、まず写真に納め、手でナメコを崩さないように慎重に採り出す。随分沢山採れ持経小屋に帰り、それぞれ今日の土産に持ち帰った。



ナメコ発見

収穫

本日の参加者

千年檜では残留の奥村さんが深山櫓を供え、先行の沖崎さんが勤行を終えて、私たちは持経小屋に戻った。

奥村さんのお陰で持経小屋も行者堂もすっかりきれいになり、私たちは水場の確認に林道を下る。年中枯れることのないこの水場は、水量は豊富なのだが枯葉や流入物で、取水口が詰まりホースからは水が来ていない。梶野さんが流入した枯れ枝や小石を取り除き取水口をきれいにし、下で竹中さんがホースを繋ぎ、ホースの中に詰まっている土や枯葉を流して通水。水はホースの中を勢い良く流れ復旧。帰りホースで水を小屋まで引くことできるかと話題になるが当面は喫緊の課題でもなさそうである。

持経小屋の本日の仕事が終了し、玄関で記念撮影をして小屋を

後にし、池原公園の駐車場で、沖崎代表から次回の行事は行仙道の電源開発の伐採した雑木を薪用に運び上げる作業。次は浦向道の尾根径の橋の架け替え、これは雨天決行することであるが、植平会長の体調の都合もあり、まだ少し流動的であると説明があった。



崩れが進んだ小屋前の斜面



持経宿の水場



(記：濱野、写真：梶野・濱野)

07：00新宮発→08：10スポーツ公園08：25→09：22持経宿09：30
→10：53平治宿12：40→13：35千年檜→13：45持経宿14：30池郷
林道ゲート→スポーツ公園15：10解散